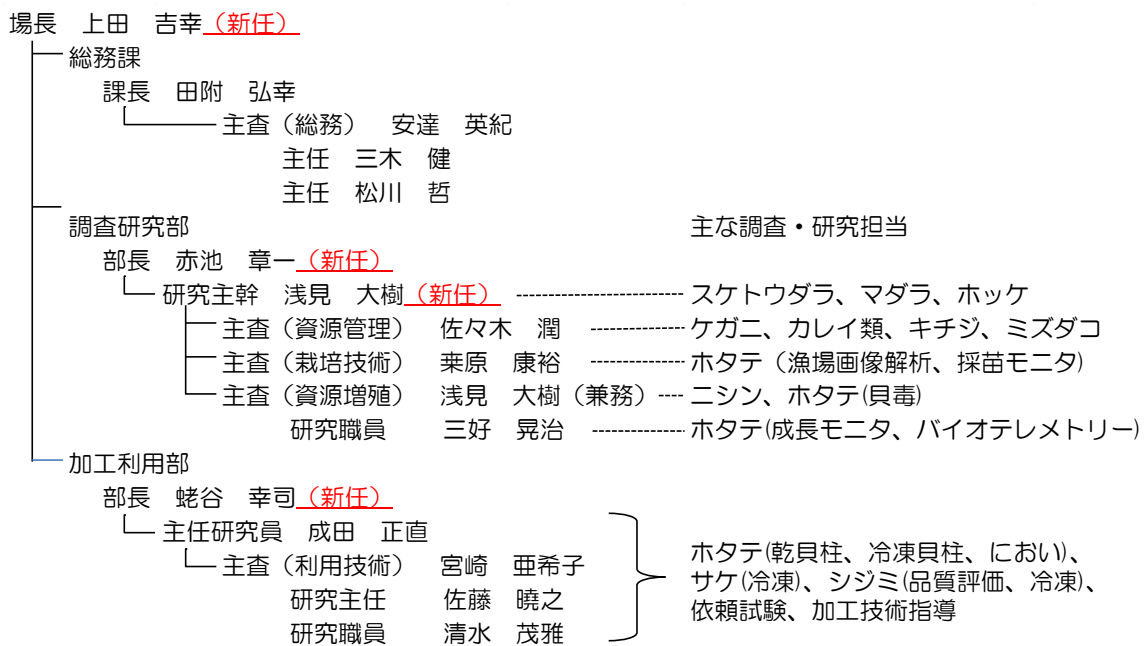


4月も半ばを過ぎ、それぞれの職場で新たな体制や気持ちでの業務が始まっていることと思います。網走水試でも今年度、幹部職員が大きく入れ替わり新体制での調査・研究業務が始まっています。今回は平成27年度の網走水試の組織体制と調査・研究課題をご紹介します。

▼平成27年度の網走水試の組織体制と各職員の業務担当は下図のとおりです。場長野俣は水産研究本部長兼中央水試場長として転出し、後任に私、上田が水産研究本部から着任しています。調査研究部長の森と研究主幹の多田は栽培水試に、主査(資源管理)の田中は中央水試へ、研究主任の室岡は、さけます・内水試にそれぞれ転出しています。森の後任には函館水試から赤池が、多田の後任には、中央水試から浅見が主査(資源増殖)を兼務して着任しています。また、加工利用部長の辻は釧路水試に転出し、後任に中央水試から蛸谷が着任しています。それぞれ、これまでの経験を生かし、地域に役立つ試験研究を目指していきたく思いますので、よろしく願いいたします。



▼調査研究部では、ケガニやホッケ、カレイ、スケトウダラ資源などのモニタリング課題に加え、今年度から「地まきホタテガイ漁場におけるアカボヤ駆除と有効利用に向けた基礎調査」、「ヒトデ類による地まきホタテガイの捕食実態の解明」、「ホタテガイ採苗安定化技術開発」などのホタテガイ漁場に関する研究課題に新たに取り組みます。

▼加工利用部では、冷凍サケの品質安定化やヤマトシジミの品質向上試験に引き続き取り組むとともに、今年度から食品加工研究センターと共同で「魚貝類の加工・保存に伴う「におい」発生要因の解明と抑制技術の開発」に関する課題で、ホタテガイの加工・保存中に生成される「におい」の対策に取り組みます。また、「乾貝柱の品質向上に関する試験-2」では、乾貝柱の色調形成メカニズムの解明に取り組みます。